

「S+3E」を新しくする、GXをもっとグリーンにする！！

私たちのエネルギー政策

これからのエネルギー政策をみんなで考える勉強会



福島県は、江戸時代から明治・昭和初期ころは木炭を、戦前戦後は石炭を、高度経済成長期は水力発電所と原子力発電所で作った電気を供給することで、日本の生活と産業を支えてきた。

2011年3月11日（金）に、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故（3.11）を経験した。被害は甚大であり、復興のための課題は多い。「フクシマ」という言葉が生まれた。

2025年2月18日には第7次エネルギー基本計画とGX2040ビジョンが、6月13日にはエネルギー白書2025が閣議決定された。

19世紀は「石炭の時代」、20世紀は「石油の時代」、そして21世紀は「エネルギー転換（エ

ネルギー・トランジション）の時代」だという。

エネルギーに関する言説には、二項対立的な論点（ポラライズ・イシュー）が多い。だからなんだというのだ。

参加者みんなで、これからのエネルギー政策について考えるために開催する。

（注意事項）

原発推進や原発反対という意見を一方的に発表する場ではございません。日本と世界のエネルギー政策のあり方などを、前向きに、そして生産的に、意見交換する場／学ぶ場です。エネルギー政策をまとめることが目的です。

（留意事項）

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故を経験した福島から、これからのエネルギー政策を、参加者みんなで考えたい。

みんなで考えたことを文書にまとめ、参加者と関係機関に配布する。ホームページで公表する。（参加の皆さんの個人名は公表しません。）

★・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・★

- 1, 日時 2025年10月20日(月)
13時30分開場・受付開始。14時開演、16時45分終了
- 2, 会場 郡山市総合福祉センター 集会室(5階)
※オンライン(ZOOM)中継も実施する予定です。
- 3, 主催 特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク
後援 福島民報社・福島民友新聞社
- 4, 内容

(第1部) 講演(14時05分～15時30分)

演題 フクシマから、これからのエネルギー政策をみんなで考える

講師 国際大学学長、東京大学・一橋大学名誉教授

(専門: 日本経営史、エネルギー産業論)

橘川武郎さん

～～～休憩～～～

(第2部) 意見交換(15時45分から16時30分)

(第3部) 事務局とりまとめ(16時30分から16時45分)

5, 定員

事前申込制です。会場(30名)、オンライン(100名)

- エネルギー問題とエネルギー政策に関心がある人
- 日本のエネルギー自給率を心配している人
- 脱炭素とか、エネルギー転換のことを、みんなで一緒に考えたい人
- 日本のエネルギー政策に、なんとなくモヤモヤ／やきもきしていく人

6, 参加費用 無料

- 7, 申込方法 QRコードからお申し込みください。
申し込み締め切りは、10月9日(木)12時を
予定しています。会場への参加申し込み希望者が
多い場合は、抽選とさせていただきます。
オンライン希望者には後日、ZOOM視聴のための
URLをお送りします。



8, 問合せ

主催者まで、お問い合わせください。

特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク

〒963-8835 福島県郡山市小原田2-19-19

担当: 事務局長 鈴木和隆 (k-suzuki@xg8.so-net.ne.jp)

✉ uketsuke@utsukushima-npo.jp

☎ 024-953-6092

(企画の背景)

国際石油資本（メジャー）の代表格である英シェルのワエル・サワンCEOは、世界は今後も長い間石油を必要とする、と言い切ります。半導体産業やデータセンター、そしてアジア地域での電力需要が伸びることが理由です。

果たして、地球のエネルギー資源は持つのか、「石油の時代」を続けていてよいのか。野放図な電力消費を謳歌していてよいのか。

一方で、地域に裨益するエネルギー政策という考え方があります。十数年前のことです。只見川沿いのある集落が豪雪で三日間もの停電を経験し、ダムのある集落は停電なのに只見川のダムで発電した電気を使っている東京は煌々と明かりがついてといます。住民の人たちは、矛盾を感じ、災害時の地域のレジリエンス強化のためにも、地域の分散型エネルギーシステムの多様な可能性を検討し始めました。

橘川武郎さんの著作『電力改革 エネルギー政策の歴史的転換』（講談社現代新書、2012年2月）には、たくさんの示唆に富むアイデアがてんこ盛りです。

(学べること)

- エネルギーとエネルギー政策に関する基本的な論点・争点
- 第7次エネルギー基本計画（2025年6月18日閣議決定）の解剖図
- 特に、エネルギー産業の観点からの論点の深掘、すなわちGXビジョン2040の持つ可能性と問題点
- 気候変動対策（緩和と適応）、エネルギー倫理、エネルギー貧困など、「S+3E」を克服（overcoming）していくための視点
S+3E（エスプラススリーイー）とは、S：安全性（Safety）、3E：安定供給（Energy Security）、経済効率性（Economic Efficiency）、環境適合（Environment）のことです。
- 新しいエネルギー政策を考える場合の構成要素
- 3. 11の地、フクシマの役割、義務、権利

(参加の呼びかけ)

是非、会場へいらっしやっただき、ご発言ください。お待ちしております。

この橘川武郎講演会は、これから5年間程度毎年10月頃に開催します。今回参加していただいた人たちで、ステアリングコミッティー（運営委員会。5人程度。）を設置する予定です。

ステアリングコミッティーは、橘川武郎さんと年数回、オンライン交流会を企画開催します。

講師紹介（国際大学のホームページから）



1951年 和歌山県生まれ
1975年 東京大学経済学部卒業
1983年 東京大学大学院経済学研究科博士
課程単位取得退学
1996年 博士（経済学）取得（東京大学）
青山学院大学経営学部専任講師・
助教授、ハーバード大学ビジネス
スクール客員研究員、東京大学社
会科学研究所助教授、同大学社会
科学研究所教授を経て、
2007年 一橋大学大学院商学研究科教授、

2015年 東京理科大学大学院イノベーション研究科教授を歴任。

2020年 国際大学 国際経営学研究科 教授

2021年 国際大学 副学長

2023年 国際大学 第13代学長

（参考書）

- 『フクシマ後 40編のエッセイで綴るエネルギーの未来』（橘川武郎）（文眞堂、2021年3月）
- 『エネルギー・トランジションー2050年カーボンニュートラル実現の道』（橘川武郎）（白桃書房、2024年4月）

